



校内作品展

9月5日（月）と6日（火）に校内作品展が開催されました。夏休みの工作や自由研究を3つの会場（低・中・高）に分けて展示し、2日間で学級ごとに鑑賞します。個性豊かな作品が並んでいます。丁寧に作り上げられているもの、発想がおもしろいもの、論理的にまとめられているものなどなど見ていて飽きません。ちょっと触らせてほしいなあと思うものもいっぱいありました。「ぼくの見た?」「触ってもいいで。」と言ってくれる子もいたので、作品展が終わって持ち帰る前に、ちょっと遊ばせてもらいました。それらも含めて学校のホームページにアップしています。



校長室前の机に、ぽかぽか便りを置いているのですが、ときどき熱心に読んでくれている子がいます。「今日配ってもらう分やで。」と声をかけると、「だって、家庭数で下の兄弟がもらうから自分はもらわれへんねん。でも、ホームページで見てるよ。カラーやし。他のも全部。」と言っていました。近くにいた子も「わたしも見てるで。」と言うので驚きました。うれしい限りです。・・・ぼちぼちいきます。

自由研究から考える環境問題

4年生の子の自由研究「家のまわりの外来生物」が目にとまりました。「外来生物クビアカツヤカミキリを見かけたことがきっかけで、どんなところにどんな外来生物がいるか調べてみようと思った」ということです。黒く胸の部分が赤い、桜や桃などの木を枯らしてしまう虫で、学校にも注意のチラシが届きました。



読み進めていくと、実際にいろいろな生き物を探して見つけたり話を聞いたりして情報を集め、それについて詳しく調べまとめています。参考にした本などもきちんと記してあります。

さらに調べたことをもとに、わかったこととして、アカミミガメ・アメリカザリガニ・ウシガエル・ハクビシン・アライグマなどたくさんいるが、それらは、荷物に紛れて、ペットとして、食用として、観賞用として、毛皮を取るためなど、人間の都合で持ち込まれた生き物であることが記されています。

最後に、外来生物の問題はだれにとっても身近なことで、できることは「いれない」「すてない」「ひろげない」、生き物を飼うときは、最後まで責任をもって飼わなければいけないということが述べられています。外来生物をどうやって減らしていくのかをみんなで考えていかなければいけないと思ったと、自分の考えも書いてまとめています。すばらしい自由研究で感心しました。

さて、人間の力によって持ち込まれたものは、何かしら環境に影響を与えます。日本の木はクビアカツヤカミキリの格好のすみかでもあり、すでにたくさんの街路樹などへの被害が急激に広がっています。また、地球上には、500万～3000万種ともいわれるほど多くの生物がいて、生態系というものの中でかわりつなぎり合っています。今までいなかった場所に新しいものが加わることにより、絶滅に追い込まれる生物が出てくるのです。種が減ることつまり多様性が失われることはウイルスの発生にも影響があるといわれています。これまでの公害問題も示すように、結局人間に戻ってくる問題となっています。これからは、環境問題ぬきに社会生活を営んでいくことはできません。特にゴミ問題は深刻です。知識と意識と行動力が必要になります。ちなみに恐竜がいた2億年ぐらい前には、千年に1種類減るペースだったものが、100年前には1年間に1種類、今では1年間になんと〇〇種類以上の生物が絶滅しているそうです。〇〇にはどんな数が入ると思いますか？

・・・4万だそうです。

